



ふるさと

ウォッチング

清涼な音の響き 水琴窟

道の駅「掛合の里」駐車場に隣接したスペースに水琴窟が設置されており、清涼な響きで訪れた人の心を和ませています。



道の駅に隣接する緑地公園には、バターゴルフ場や遊具も設置してあります。

江戸時代頃に庭師の風流心から作られたとされ、手水の水を利用して妙音を楽しむための仕掛けを施した日本庭園の技法のひとつ。そのしくみは、地中に埋めた水がめの中の溜まり水に水滴が落ちて反響するというものです。
みなさんも清涼感あふれる水琴窟の音色をお聞きになってはいかがでしょうか。



酒蔵資料館にも水琴窟があります

5/17

あつい夏に向け ヒツジたちの毛刈り

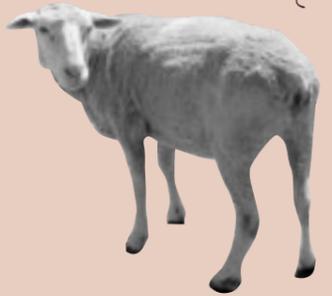
木次町健康の森で毎年恒例となっているヒツジたちの毛刈りが5月17日から6月2日にかけて行われました。

毛刈りをしたヒツジは全部で16頭。

健康の森職員と市職員、獣医師ら4人が、はさみとバリカンを使い、毛刈りをしました。

また期間中には、市内の小中学生も見学や毛刈り体験を行い、初めての経験に喜んでいました。毛刈りを終え、夏衣装に着替えたヒツジたちは、涼しげに走りまわっていました。

この健康の森の小動物公園にはヒツジたちのほかヤギもいて、実際にふれ合うことができそうですので、みなさんもぜひお越しください。



5/23

秋の収穫楽しみ、学校田で田植え体験

吉田中学校生徒が総合的な学習の時間「ふるさとタイム」の一環として田植え体験を行いました。

体験したのは「ふるさとタイム」で5つの講座の中から「吉田の稲わら」を選択した20人。この日は学校近くの広さ6aの学校田で、コシヒカリとココノエモチを植えていきました。



地域の農家など8名の指導を受けて15cm間隔で苗を植えました。今後は、除草作業、稲刈り、はで干し、脱穀などの体験をするともに、稲の品種、病害虫、稲作の歴史などについて学習し発表する計画です。
初めて田植えを体験した生徒は「収穫した米を秋の文化祭で地域の人たちと一緒に食べて食べるのが楽しみです」と話していました。

まもなく収穫



美さんのぶどう園では、デラウェアをはじめロザリオピアンコや赤嶺などの多く品種が栽培されており、45aの圃場では、収穫前の作業が大詰めを迎えています。

作業は、品種により収穫時期が異なるためそれぞれ違いますが、適房（バランスの良い房にする作業）や適粒（適切な数の粒に調整する作業）などが行われています。

星野さんによると「春先から寒い日が続き、雨が少なかったりしたため、生育は遅いが、日照時間が長かったため、上質の出来だと思えます」と話していました。

三代のぶどうは出荷後、市内の店頭にもお目見えするほか、各農家での直販もされる予定になっています。



三代ぶどう



7月頃から加茂町三代の特産品、デラウェアやピオーネなどのぶどうの出荷が始まります。

このうち、星野昭

6/1

ロジャーさん、キャミールさんと料理教室

大東町で毎週水曜日に開催されている英会話教室の一環として、国際交流員のロジャー・マシューズさんと英語指導助手のキャミール・ハンブルスさんによる料理教室が開催されました。



当日は、英会話教室の生徒や子どもたちおよそ20人が参加し、ピザとスコーン作りに挑戦しました。

ピザは、キャミールさんが作ってきたピザ生地を使って、それぞれ思い思いにトッピングをして作りました。

材料は参加者が持ち寄り、定番のピーマン、玉ねぎ、トマトをはじめ、イカやしじみをトッピングする個性あふれるピザが出来上がりました。



一方、スコーンは外側がサクサク、中はふんわりとしたイギリスの伝統的なお菓子。材料を混ぜ合わせてこねた後、オーブンに入れて、焼き色を見ながら焼き上げました。

参加者からは、「普段作らないお菓子だったけど、おいしかった」「とても楽しい時間だった」と、ロジャーさんやキャミールさんと楽しいひとときを過ごしていました。

5/22

農山村交流 ふれあい体験農業



三刀屋町神代の農事組合法人フレッシュユファーム神代（奥田功組合長）所有の水田で、広島県や松江市などの住民と田植えや稲刈りを通じて、交流を深める「ふれあい体験農業」がありました。

このイベントは、地元住民で構成する「いきいき21世紀委員会（奥田武代表）」が5年前から毎年取り組んでいるものです。

この日は、親子連れなどおよそ100人が集まり、委員会のメンバーから植え方を教わった参加者は、泥まみれになりながら苗を植えていきました。

田植えが終わると、笹まきづくり体験もあり、都市と山村間の家族ぐるみでの交流が一層深まりました。



同委員会では、秋に収穫体験も予定しています。